



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第19号 (H23.10.7)

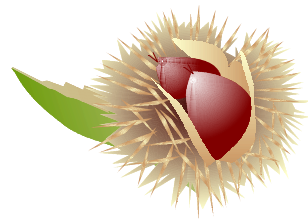
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



(弁論：廣田佳穂さん)



(暗唱：興梶七海さん)

第65回都北地区中学校英語暗唱・弁論大会 ～興梶さん(暗唱)・廣田さん(弁論) 最優秀賞!～

第65回都北地区中学校英語暗唱・弁論大会は9月29日、都城市の中央公民館でありました。暗唱、弁論の部で泉ヶ丘附属中2年生の興梶七海さんと廣田佳穂さんがアベックで最優秀賞となりました。この大会には、暗唱、弁論2部門で市内と三股町の中学生53人が、発音の正確さや発表内容などで競うものです。日常の英語学習の成果や自己表現する機会にしてもらおうと、都北地区中学校英語研究会が毎年開催しています。市内の高校の外国人英語教諭ら審査員2人が発音や表現力、内容を審査しました。暗唱の部は、教科書で学んだ文章や物語から抜粋。弁論の部では身近な出来事や社会問題をテーマに書いた英作文を身振り手振りを交えた熱弁でした。両部門の最優秀賞は、宮崎市で10月14日に開かれる県大会に出場します。弁論の上位3名は、全国大会(高円宮杯)に出場する権利を得ることになります。

暗唱「The Auction」

弁論「Conquering my weaknesses」

(自分の弱さに勝つ・己に勝つ)

附属中中体連壮行式を行いました!

9月29日に第35回都城地区中学校秋季体育大会の壮行式を行いました。各部の主将から力強い決意表明がありました。また新たな歴史を刻むこととなります。



(左から米澤先生・廣田さん・興梶さん・ALTのハーマイオニー先生です。)



●女子バスケット部

橋口(主)・奥野・佐藤(2年)

奥田・小林・新地彩希
原田・平山・待木(1年)

顧問：三重野先生
松野先生



●女子バドミントン部

大井(主)・藤岡・益留伊勢(2年)

赤崎・有馬・今栖
大牟田・益山(1年)

顧問：米澤先生

坂上先生・石井先生



●柔道部 渡邊(2年)
顧問：黒木先生



●陸上 高橋(1年)
顧問：松崎先生



●女子硬式テニス部

入江（主）・濱田（2年）
萱嶋・新地海生（1年）
顧問：齋藤先生
寺田先生



●男子硬式テニス部

尾前（主）・小野・桑畑・松元
溝口（2年）
荒武・寺本・常盤・豊國・仲道
中村泰生・中村風雅（1年）
顧問：齋藤先生

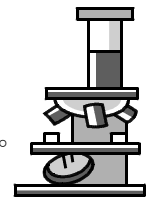
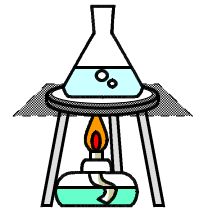


●男子バスケット部

海野（主）・飯田・瀬ノ口
永里・西川・森山（2年）
馬場・松本（1年）
顧問：松崎先生
徳地先生

ちょっと読んでみてください！

科学への関心が強まったのは中学時代だ。
 ブラックホールに関する自然科学の本を読んだことがきっかけだ。
 ロケットに乗った飛行士がブラックホールに近づけば近づくほど、時計の進み方はゆっくりになる。
 ただし、宇宙飛行士は時計の進み方がゆっくりになっていることに気づかない。
 でもブラックホールから離れた位置で観測すると、宇宙飛行士は止まっているように見える。
 なぜ同じ時間なのに進み方が違うのか。
 本に書かれていた内容が理解できなくて、そこから物理の世界にのめり込んだ。
 結局、アインシュタインの相対性理論で、説明はつくのだけれど、
 自分の頭で理解するまでに数年かかった。大学は法学部を選んだ。
 こまっしゃくれの高校生には、文系の方が出世しやすい風潮に思えたからだ。
 同級生の多くも、役人になって天下りするという人生設計を立てていた。
 ただし、当時の僕には法学の授業はつまらなくて、一般教養で受けた物理や数学の方が、断然面白かった。
 これは間違ったと思って、大学3年のときに教養学部教養学科の科学史・科学哲学というところに進学し、
 そこから卒業してから物理学科に学士入学した。
 当時は理系の成績上位者が集まる花形学部で、高校を文系クラスで過ごした僕は、
 小3のアメリカ時代、小5の帰国直後と同様またビリケツ状態になった。
 わかりきっていたけれど、そんな思いをしてまで学部を変えたのは、
 好きなことをやるべきだと強く思ったからだ。
 大学1年生のとき、高校の馬術部の後輩が亡くなった。突然死だった。
 葬式を手伝いに行った際、かれの部屋に、新品のスキー靴がポツンと置かれていた。
 推薦入学が決まっていたから、きっと、冬休みにスキーに行くつもりだったのだろう。
 明日、人生が終わるかもしれないのに、嫌いな法律を勉強している場合かと、と。
 好きなことをやろう。そう決めた。
 素粒子の勉強がしたくて、カナダの大学院にも留学した。
 そこまで行ってようやく気づいたのだ。
 僕は物理学者になりたかったわけではなくて、高度な理論や数学を学ぶのが好きなのだ。
 もっと言えば本を読むことが好きなのだ。
 ちょっと回り道をして僕がたどり着いたのは、サイエンスライターという職業だった。



竹内 薫（サイエンスライター） プレジデントFamilyより

「論語から学ぶ」その1

子曰わく、「**故きを温ねて 新しきを知れば、以て 師と為るべし。**」

孔子の先生がおっしゃった。

「昔の人の教えや過去の事について学習し、そこから新しい考え方や取り組み方を見つけられれば、
人を教える先生となることができる。」

安岡定子著「こども論語塾」より